

図書館ニュース



「図書館サービスへの一つの想い」

学長 早坂 三郎

図書館には様々な分野・領域にわたる蔵書や資料があり、われわれ利用者は落ちついた雰囲気の中で読書に、学習に励む場所であるということは周知のことですが、希望の本や資料・情報がどこにあるのかといったレファレンスサービス提供の的確さとスピーディさに、今、大きな変革が加えられようとしています。それは、一つの図書館内に止まることなく、また学校などの機関間の連携も言うに及ばず、地域さらには国を超えてのグローバルで、しかも多面的な検索・提携も可能となることです。図書館員の仕事には、レファレンスサービスの他にも、本の受け入れ、維持・管理、そして配架などのまさしく整理整頓などを思い浮かべますが、よくよく図書館内を見わたしてみると、それらばかりではなく歴史や文化の講座・講演会など様々なイベントが企画・開催されていることがわかります。

そんな図書館の大きな役割の一つに、子どもの読書離れに対応するための幼児や児童を対象とした企画やサービスがあります。図書館は、単に蔵書のジャンルを広げるとかその数を増やすということだけではなく、この例でいえば、保育段階における「読みきかせ」とか子どもの読書活動の推進もその事業計画に含まれています。このような取り組みにより子どもたちが物語や読書に集中し、逞しくイメージして、深く考える切っ掛けとなり、さらには演繹的思考の展開となることが期待されます。ただ、私見ですが、「読みきかせ」との表現は気になっているところで、むしろ「読み語り」などといった共感的な名称の方が良いのではないかと感じているところです。

他方、内閣府発表の第5期科学技術基本計画にあるSociety5.0での「超スマート社会」が身近となり、社会の変革が必至となる昨今及び今後において、かつてない価値

が経済・産業と文化並びに社会にもたらされることになるので幼児期や学童期の皆さんに、このような活動によって読書への動機づけが高まることは、将来社会への適応性と開拓性を培うことになるといえます。母親の膝に腰かけて本を読んでもらう時間は幸せそのものですが、私の小学校低学年時代の思い出の一つに、「おはなし玉手箱」という番組名だったと思いますが、ラジオから流れてくるドラマ仕立ての放送があり、想像を大いに膨らませ、とても心地よい時間だったことを思い出します。それがきっかけとなり、文学全集を小遣いで買う程に、本に関心・興味を掻き立てられたものでした。そこで、素材と提示方法によっては中学・高等学校の生徒さんにも図書館活動の対象を拡げることが可能となるでしょう。

ところで、今後は人生百年時代となり、生涯を通じて学ぶことが求められます。まさに、これからの時代においても本学の建学の精神である「勤勉努力」が必要であり、超スマート社会の根幹にこそ「和衷協同」「至誠一貫」の精神が不可欠であります。一方、図書館にあっても、障害者の方々や社会人・高齢者に向けたサービスの多様化とともに、世代間交流や地域交流活動も進められていくことが予想され、その多機能性が一層求められていくことでしょう。

シーンと空気が張り詰めていて緊張感が漂う図書館で、読書する人・読まない人との二分化が進む現況にあって、レファレンスサービスによる読書や学習といった図書館の従来の利用スタイルから、電子図書館機能やインタラクティブな活用にシフトしていくことは容易に予想され、また物理的スペースの関係上からも紙媒体によらない利用スタイルへと変貌を遂げ、その役割と内容が革新的に展開していくことを夢見るように期待しています。

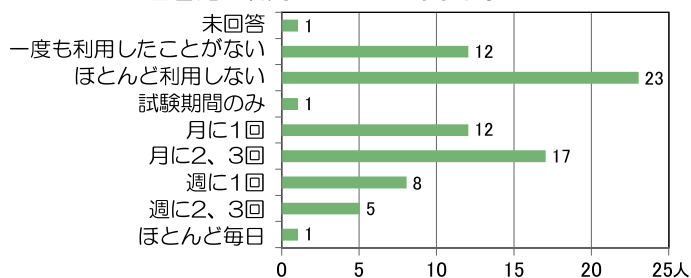
図書館についてのアンケート 結果報告

学生の皆さんにとって使いやすい図書館を目指すため、このたび『図書館についてのアンケート』を実施しました。たくさんの質問に答えていただき、ありがとうございました。アンケートの結果がまとまりましたので、いくつかご報告します。

I 回生 33名/35名中(生環 13名/15名中)(幼教 20名/20名中) 実施日(平成30年11月16日)
II 回生 47名/52名中(生環 17名/20名中)(幼教 30名/32名中) 実施日(平成30年11月2日)

◆甲子園短期大学附属図書館(以下、図書館)の設備や図書館サービスに関して

(1) 授業や新入生対象のガイダンス以外で図書館を利用したことがありますか？



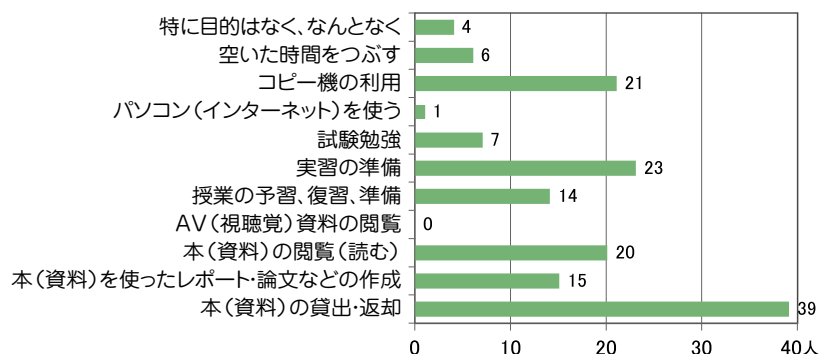
ガイダンスに関しては「授業と関連させた資料の探し方」の要望が多かったので、具体的なリクエストをお待ちしています。簡潔でわかりやすいガイダンスになるよう、今後も検討していきます。



貸出冊数・貸出期間・開館日・開館時間については、ほとんどの人が今のままでよいと答えていましたが、卒業研究や実習などで必要な場合は、長期貸出にも応じています。貸出冊数の相談にもりますので、希望する人はカウンターで声をかけてください。

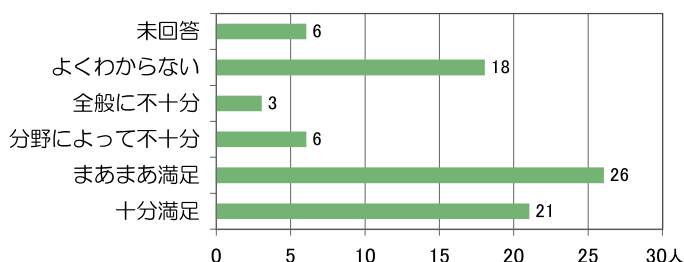
レファレンスサービス(調査相談)については、カウンターで図書館職員に本の場所を質問したことがあれば、サービスを利用したことになるのですが、説明がわからなかった人が多かったようです。本の場所だけでなく、統計データや参考資料の探し方など、困った時はカウンターで気軽に図書館職員に相談してください。

(2) 図書館を利用する主な目的は何ですか？(複数回答可)

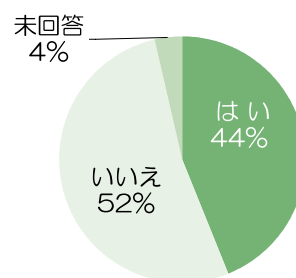


◆図書館での学習に関して

(3) 蔵書(図書館が所蔵している本)についての満足度を教えてください



(4) 短大に入学してから図書館でレポート課題に取り組んだことはありますか？



◆最後に・・・

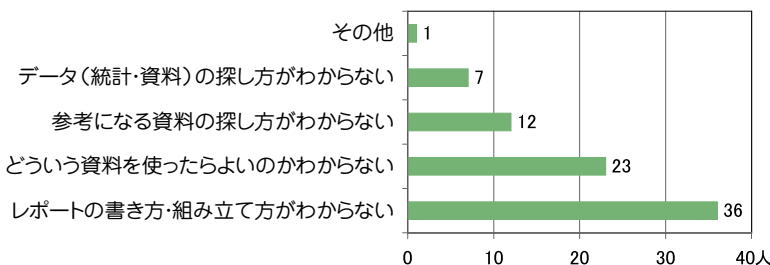
アンケートの結果、図書館を一度も利用したことがない人やほとんど利用しない人が、44%もいることがわかりました。

読書の習慣があった人でも入学後は時間がなくなり、今までのように読書ができなくなっている場合もあるようです。

読書が苦手・嫌いという人、今まで読書する機会がなかった人、本を持っていない人もたくさんいて、読書離れ・本離れが進んでいることを実感しました。

図書館としては、読書感想文などをきっかけに何か1冊でも気に入った本を見つけ、読書の楽しみを知り、視野を広げ人生を豊かにしてほしいと願っています。

(5) レポート作成で困った理由は何ですか？(複数回答可)



読書感想文優秀作

『いのちのバトン 97歳のぼくから君たちへ』

(日野原 重明 著／ダイヤモンド社)

幼児教育保育学科Ⅰ回生1組 佐藤 かえで

「いのちのバトン」というタイトルを見た瞬間私はこの絵本を手にとっていました。いのちのバトンって何だろう、九十七歳の作者から私たちに伝えたいことって何だろう、そんな想いが駆け巡りました。きっと今の私にとっても重要なことだと感じこの絵本を選びました。

絵本を開き読み進めていくと、重みのある言葉と柔らかな優しい絵に魅了され、読み終えた後すぐに再び最初のページから読み始めていました。「いのちは見えないもの。だからこそ大切なものなのです。」何度も読むにつれ、この言葉の意味がわかってくるような気がしました。どの言葉も本当に素晴らしく人生において大切なことだと思いましたが、保育士を目指している学生の私の胸に届いた言葉が三つあります。

一つ目は「許しあえるのが本当の仲間。幼い頃けんかをした友は、終生の友となりました。」という言葉です。私にも幼い頃よく喧嘩をしていた友人がいて、先生や両親には喧嘩はいけなないと怒られました。しかし喧嘩をした後仲直りするとより一層二人の仲は深まりました。そのお陰で言いたいことを言い合える関係は今でも続いていますし、これからも続くと思います。喧嘩をしても仲直り出来、絆を深めることが出来たので、喧嘩は悪いものだけではなくたと今になって思います。

二つ目は「だれかと力を合わせなければ人生は成り立たない。」という言葉です。人は一人では生きていけないと思います。誰かと協力し合い乗り越えるものがあるから人生は楽しいのだと思います。七月に学校で試験がありました。試験が始まる前に早く学校に来たり、試験が終わった後に学校に残ったりしてクラスの友人と試験対策を行いました。一人では苦痛な勉強も友人と共に力を合わせることで楽しく出来ました。そのお陰で難しい試験も、緊張する試験も無事乗り越えることが出来ました。小さなことです。誰かと力を合わせ乗り越えていくことの大切さをひしひしと感ずることが出来ました。

三つ目は「どんな不幸や不運と思われることの中にもチャンスはある。」という言葉です。中学生の頃に修学旅行でテーマパークに行った際、少し雨が降りました。楽しみにしていた中での雨でしたので落胆しました。しかし雨が降ったお陰でお客さんが少なく、ほとんど並ばずいろんな乗り物に乗ることが出来ました。私が経験した不運は小さなことですが、これからの人生では色々な不運や不幸が付いてくると思います。そんな時にこの言葉を心に留めておき、チャンスを見出せたらと思います。

三つの言葉は保育士を目指している学生の私にも、将来保育士になった際の子どもの関わり合いの中でも大切なことだと思えます。私も「いのちのバトン」を子どもたちに手渡ししていくことが出来る立派な保育士になりたいと思えました。

この絵本を読み、命の大切さや家族、友人の大切さ、諦めない心など生きていく上で大切なことを多く学ぶことが出来ました。この絵本の多くの素晴らしい言葉を胸に今後の人生を歩んでいきたいと思えます。

 日野原さんの言葉がストレートに佐藤さんの心に響いたのは素敵ですね。年長者の言葉には深い意味が込められていると思います。そしてその中から保育者になった時、大切にしたいことを見付けられたのですね。実践できる保育者を目指して下さい。

読書感想文優秀作

『さっちゃんのまほうのて』

(たばた せいいち 著／偕成社)

幼児教育保育学科Ⅰ回生1組 柳田 和香

さっちゃんには、生まれつき右手に指がありません。

私は普段当たり前のように物をつかんだり自由に動かしたりできます。もし私がさっちゃんだったら、さっちゃんのように明るく強くいられるだろうかと考えました。

さっちゃんは幼稚園の遊びの中でお母さん役をやったかったのに、お友達から「さっちゃんはお母さんになれないよ。手のないお母さんなんて変だもん。」と、言われました。とても辛い言葉だと思います。小さい子どもながらに辛さや悲しみがこみ上げてきて幼稚園を飛び出してしまいました。

「さちこの手はどうして指がないの？ どうしてみんなと違うの？」「小学校になったら指が生えてくるの？」と、さっちゃんがお母さんに聞きました。

とてもかわいそうでした。さっちゃんは、きっと心のどこかで人と違うということをわかっていたのだと思います。

「さちこの指は小学校になっても今のままよ。」と、お母さんは言いました。

胸が痛みました。体の不自由な人が自分の体について知ってしまった時の気持ちには、人には言えない程の苦しみと悲しみがあると思います。お母さんに訴えたさっちゃんも辛かっただろうし、お母さんもそれ以上に胸が痛んだと思います。障がいを持った人たちが体の不自由な人たちは、自分自身の強い心で乗り越えていくのだと思います。それには家族や周りの人たちの支えも必要だし大事です。

さっちゃんのお父さんが言った言葉があります。「さちこと手をつないでいると、とっても不思議な力がやってきてお父さんの体いっぱいになるんだ。さちこの手はまるでまほうの手だね。」

なんて素晴らしい言葉だろう。胸が熱くなりました。お父さんの愛情深い言葉だと思います。この言葉でさっちゃんは変われたのだと思いました。明るく前向きになれたのは、さっちゃんの心をお父さんが強く変えたからだと思います。家族のつながりはすごいです。家族でしかわからない辛さは家族で分かち合い、支え合って絆を作るのだと思います。

これからさっちゃんは、大きくなって様々な試練を経験するかもしれません。でも負けないでほしいです。その時にお父さんの言葉を思い出して気持ちを強く持ってほしいです。家族が一番の支えでもあるけれど、たくさんの人がさっちゃんを支えているように、さっちゃんもたくさんの人を支えていくんだなあと思います。さっちゃんの手は、勇気と頑張る力を与える手。頑張っている姿を通してたくさんの人を励ます強い手なんだと思いました。

私は何の不自由のない体で生まれてきて、当たり前のように生活しています。それでもちょっとしたことで落ちこんでしまったり、自信をなくしてしまう、まだまだ弱い私です。この本を読んでさっちゃんのたくましい強い姿勢を見習って、もっと頑張っていかなければと思いました。

 さっちゃんは素敵な子どもですね。その良さを感じることのできた柳田さんも優しい心の持ち主でしょうね。



新図書館長挨拶 「新図書館長挨拶」…………… 浅田 雅宣(図書館長)

平成30年4月に前図書館長の瀧上凱令先生の後を受けて、図書館長を拝命致しました。図書館ということで振り返れば、私自身小学校から大学院を経て今日に至るまで、学校の図書室や図書館、さらに、公共図書館を利用し、大変お世話になってきたことに気付き、とても感謝しています。

本学においても、学生の皆さんには、図書館に来て本に親しみ、勉強にも趣味にも図書館を活用してもらっていますが、より気楽にもっと多くの人に利用してもらいたいと思います。小説等では、その場面の情景を頭の中で思い描くことで、知らず知らずに創造力が豊かになって行きます。その思い描く情景もこれまでの経験と想像力により一人一人異なります。感動や受け取り方も人によって異なりますが、本の面白さに気付いたら人生がより楽しくなり、世界が広がります。さらに、文章構成力や語彙力も知らず知らず身に着いてきます。また、現代では、PCやスマホで本を見たり、情報を取得することが増えてきていますが、それは大きな時代の流れであり、図書館も紙媒体だけでなく、電子化に対応して行く必要が有ると思います。一方、図書館では本の利用だけでなく、閲覧室には、勉強やレポート作成のための資料を広げて作業を行う十分なスペースが確保されています。閲覧室では、“静かにする”というのが基本ですが、時にはラーニング commons の様に、司書

に断ってから数人で話をしながら作業をすることも奨励します。

情報の取得ということでは、パソコンを用いて各種データベースにアクセスし、より多くの専門的な情報を入手することができることを知っておき、将来的に仕事上での調査や情報検索に活かせるようにしておくのも、本学で身に着けられるプラス α の力ということになります。

さらに、本学の図書館は卒業生も利用できますので、卒業後も短大に来て本を読んだり、調べものをしたりすることに活用されることを大に歓迎します。

教職員には、学生に各種課題を与えることで、図書館に誘導して頂きたいと思います。さらに、講義や研究のための各種データや情報入手基地として位置づけられますが、各研究室のパソコンからもパスワードを入力することで多くのデータベースにアクセスすることが可能です。その種類や検索の仕方については司書に聞いて頂くとよいです。本学や甲子園大学の図書館の蔵書には限りがあり、提供が困難な情報もありますが、他大学や国会図書館からも書籍や資料のコピーの取り寄せが可能です。この様に図書館の機能を知り、本学の貴重な財産である図書館がより有効に活用されることを願っています。

随 想 「コトバの重み」…………… 末田 啓二(特任教授)

「♪♪秋の日の図書館のノートとインクのおい…♪♪」ペギー葉山の「学生時代」、皆さんの祖父母の世代では知らない人はいないくらい流行った歌でした。当時は女性が大学や短大に進学するのは非常に少ない時代でした。そして女子学生は男子学生にも増して小説や詩歌への関心が強かったように思います。この傾向は今に始まったことではありません。日本は奈良時代から女流歌人や作家を多く輩出しています。百人一首の坊主めくりでもお姫様はたくさん出てきます。明治以降現代もこの傾向は続いています。

活字離れが指摘されて久しい今日、街角から本屋さんめっきり減りました。情報化社会にある現代、視覚情報の果たす役割は極めて大きいと言えます。国語、特に書き言葉は文化そのものです。国語はその国の国民性を象徴する文化であり、アイデンティティでもあります。欧米の特に人口が少ない小国は自国語の存続に必死です。外国で生活する子どもは数年ごとに母国に連れ戻され、国語の再教育が義務付けられる国もあると聞いています。

他国の圧力によって強制的に国語使用が禁じられた国もあったことは歴史が示しています。我が国においても終戦直後、日本の教育はすべて英語を用いるのが好ましいとする考えがGHQ内部にもありました。今日英語教育の重要性が叫ばれていますが、基礎となる母国語を軽んじては他の語学の学習成果は上がらないことは種々の研究が示しています。なぜなら他の言語は母国語によって学習されるからです。言語は思考の手段であり、思考発達と言語発達とは不即不離の関係であることは、ヴィゴツキー(思考と言語)やピアジェ(子どもの思考)を勉強すればすぐ理解できることです。今では「文学少女」は、理屈をこねてばかりの小生意気な女性とのイメージが定着していますが、職務遂行上不可欠な能力の第一が国語力であることは、どの経営者も認めています。

外国へ行ってまず聞かれることは日本の文化や歴史についてです。短期にせよ外国留学するなら、まず日本の文化

と歴史をあらかじめ勉強しておくこと、さもないれば日本人なのに日本のことをまるっきりわかっていないと軽蔑されるだけです。私の京都での体験ですが、あるお寺を参観した折隣の外人から、この額に何と書いてあるのですかと尋ねられましたが、達筆すぎて読めません。日本語ですかとたたみかけるように問われて、確かに日本語ですと思わず答えてしまいました。実に恥ずかしかったのを覚えています。きっと日本人が日本語を読めないなんてと思われたことでしょう。

ところでコトバには重みがあるのをご存知でしょうか。この重みは人によって異なります。コトバの重みは絵画に例えると一本の線です。その一本の生きた線を描くために、画家や書家はどれだけの修行や研鑽を積んできたことでしょうか。重いコトバを発する人の背景には、人に感動を与えるだけの重い人生があることでしょう。

SNS、ツイッターでのコトバ、フェイスブックなど、インターネット上はコトバや文字でうめつくされています。どれが正しくてどれがウソなのか、どれが大切でどれが無意味なのか、どれが本質でどれが枝葉末節なのか、判断するのはとても難しいです。

正しい判断や評価はどうしたらできるのでしょうか。まずは実際に自分の目や耳で確かめること、そして一流と誰もが認めるものに数多く触れること。文章やコトバもやはり、一流の作家や詩人・歌人に多く触れ、その表現力の豊かさ、奥深さに感動することが、自らも豊かな言語表現が可能になるための第一歩でしょう。

コトバは我が国では言霊(ことだま)とも呼ばれ、聖書にも「言葉は神であった(ヨハネ福音書)」とあります。古今東西コトバが本来いかに重いものであったかを物語っています。一国のリーダーさえ、その発するコトバの何と軽いことが、ただ驚くばかりです。

私のそしてあなたのコトバは、今まさに「鼎の軽重」ならぬ、「コトバの軽重」が問われているのです。

随 想 「物語との出会い」…………… 千原 智美(准教授)

私が最初に聞いた物語は、家族から聞いた昔話だったと思います。「昔々、ある所に～」で始まる話だけでなく、母親の小さい頃の話や、語り継がれてきた家族の歴史のような話でした。忙しく立ち働く親からじっくり膝の上で話してもらった記憶はありませんが、用事をしながら繰り返し語ってくれたのでしょう。その家族の話は、まるで見てきたかのように私の記憶に残っています。私が人の経験の話を聞くことが楽しいと感じるのは、この体験からかもしれません。

小学生の時、学校の図書室によく通っていました。自分の図書貸出カードを何枚も一杯にしたいくて、図書室に通って本を借りていました。今のようにゲームがなく、テレビの子供向けの番組が少なかったこともあり、本を読んでいることが多かったのだと思います。

図書の先生の薦めてくださる児童書や楽しそうな題名の本を選んで読みました。なかでも「ドリトル先生」や「長靴下のピッピ」などのシリーズ本は、楽しくてワクワクしながら読んだのを覚えています。主人公の動物のお医者様ドリトル先生と動物たちのやり取りがおもしろく、また長靴下をはいた女の子のピッピの気持ちに共感して物語の世界に入り込んで読んでいました。きっと登場人物と一体化して一緒に体験した気分になっていたのでしょう。

中学生になると、中国史の好きな社会の先生に出会い、歴史小説を読むようになりました。元々父親の影響で歴史

の話が好きだったことに加え、その先生の影響で三国志など中国を舞台にした本を読むようになりました。今でも時代小説を読むことが多いです。特に浅田次郎、畠中恵、高田郁、宮部みゆきの小説が好きです。

大学で幼児教育を勉強し始めてからは絵本を見る事が増えました。この頃に柿本幸造さんの「どんくまさんシリーズ」の絵本に出会いました。温かいほっとする色合いの絵と、のんびりとしていて、ドジだけれどもとても心の温かいどんくまさんとうさぎ達のストーリーが私の心をほっこりさせました。その中で、「じゃむじゃむどんくまさん」の絵本が今でも一番好きです。

絵本は、絵と考え抜かれた簡潔な文との見事なコラボレーションです。その中には楽しさと驚きと感動が詰まっています。子どもと一緒に繰り返し読むことでより物語の世界が広がっていきます。

振り返ると色々な人の影響を受けて物語と出会ってきました。時間を忘れて物語を読み終えた時には、ちょっとした達成感を感じます。気持ちも少し変化します。言葉は心を揺らします。そんな物語や絵本とこれからも出会っていきたいと思います。



推薦図書 「いつも振り返る言葉」……………中村 美智代(専任講師)

私が「ケア」という言葉から、ミルトン・メイヤーロフ(Milton Mayeroff)に出会ったのは2000年に介護保険法が施行され、福祉職場に介護支援専門員(ケアマネジャー)という、ケアマネジメントを実施する有資格者が登場した頃だ。著書の『ケアの本質』の一節で、「一人の人格をケアすることは、最も深い意味でその人が成長すること、自己実現することを助けること」「つまりケアは、対象者が成長し自己実現することを助ける過程の中で相互信頼が深まり、成熟した関係へと共に成長する関係のあり方である」とあった。

この言葉の意味を本当に理解できたのは、高齢者施設へ転職して働き始めた頃だった。そこで出会った入居者の90代の男性Aさんは、同様に入居している常時介助が必要な奥様の見守りや生活支援を自らのできる範囲でされていた。奥様や周囲の人すべてに穏やかに接して、奥様の介助をする職員にも細やかに配慮しながらサポートされていた。私たち職員に対して常に謙虚でいながらも、適切に意思表示をされてるAさんを入居者、職員ともに尊敬していた。

しかし、奥様がやむを得ない理由で施設を退居される際、元気のないAさんに私たちがかけた言葉にきっぱりと、珍しく強い口調で、「『大丈夫ですよ』という言葉あなた方はよくいってくださるが、それを決めるのは私です。」と言われたことがあった。Aさんは長年連れ添った

奥様と離れてしまうのはつらいだろうと、職員たちは安心していただきたくてかけていた言葉だった。実際、Aさんはつらい気持ちでいっぱい、それでもしっかりしなければという気持ちとの狭間で必死に自分を保とうとされていた。私たちは、Aさんを慰めるのではなく、しっかり傾聴して共感していることをまず示すべきだった。そして、どのように考えているか、今後どうしていきたいかを共有して、ともに進んでいくことが必要であった。もちろんそのつもりだったが、Aさんには一方的に感じられたのだった。

このとき、私はメイヤーロフの言葉を思い出した。「ケア」の場面では一方方向ではなく双方向であり、こういった、ひとつひとつのことを丁寧に重ねていくことで、その人が成長するのを見守るだけでなく、それによって自らも成長していかなければならない。「ケアの本質」は大切な私の指南書である。



「ケアの本質：生きることの意味」
ミルトン・メイヤーロフ：著
田村 真・向野 宣之：訳
ゆみる出版：発行
短大図書館：所蔵

読書感想文・課題図書より

この目録は、Ⅰ 回生対象の平成30年度読書感想文・課題図書の一部です。Ⅱ 回生にも読んでもらいたい本が推薦されていますのでご紹介します。

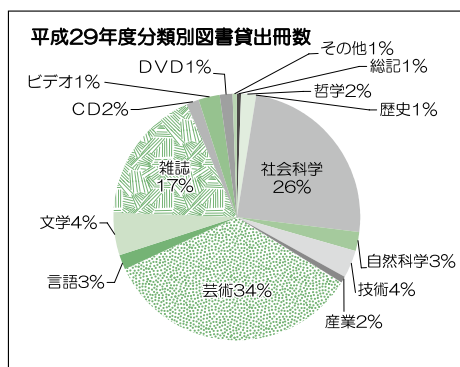
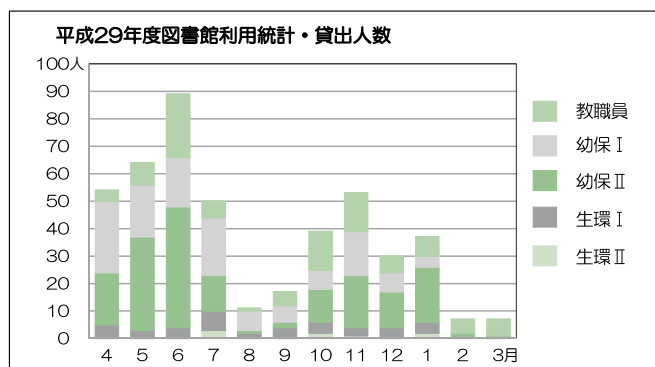
書 名	著 者 名	発行所	分類番号
生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉	日野原 重明	幻冬舎	159
君たちはどう生きるか 岩波文庫	吉野 源三郎	岩波書店	159
こんな夜更けにバナナかよ 筋ソス・鹿野靖明とボランティアたち 文春文庫	渡辺 一史	文藝春秋	369.27
幼児の内面を育てる 聞く・見る・話す・表現する ー現場からの保育論	広岡 キミエ	ひとなる書房	376.1
一汁一菜でよいという提案	土井 善晴	株式会社 グラフィック社	596.04
車いす犬ラッキー 捨てられた命と生きる	小林 照幸	毎日新聞出版	645.6
ごんぎつね	新美 南吉	偕成社	726.5
さっちゃんのまほうのて	たばた せいichi 他	偕成社	726.5
100万回生きたねこ	佐野 洋子	講談社	726.5
一〇三歳になってわかったこと 人生は一人でも面白い 幻冬舎文庫	篠田 桃紅	幻冬舎	728.216
色の新しい捉え方 現場で「使える」色彩論 光文社新書	南雲 治嘉	光文社	757.3
いのちのバトン 97歳のぼくから君たちへ	日野原 重明	ダイヤモンド社	911.56
おちくぼ物語 文春文庫	田辺 聖子	文藝春秋	913.6

書 名	著 者 名	発行所	分類番号
海賊とよばれた男 上・下 講談社文庫	百田 尚樹	講談社	913.6
銀河鉄道の父	門井 慶喜	講談社	913.6
錦織 新潮文庫	宮本 輝	新潮社	913.6
銀嶺の人 改版 上・下 新潮文庫	新田 次郎	新潮社	913.6
羊と鋼の森	宮下 奈都	文藝春秋	913.6
生きる事はおもしろい	五木 寛之	東京書籍	914.6
困ってるひと ポプラ文庫	大野 更紗	ポプラ社	916
チーズはどこへ消えた?	スペンサー・ジョンソン	扶桑社	934
飛ぶ教室 新潮文庫	エーリヒ・ケストナー 池内 紀 訳	新潮社	943.7
ふたりのロッテ 岩波少年文庫	エーリヒ・ケストナー 池田 香代子 訳	岩波書店	943.7
黒いチューリップ 創元推理文庫	アレクサンドル・デュマ	東京創元社	953
星の王子さま 集英社文庫	サン・テグジュペリ 池澤 夏樹 訳	集英社	953
愛の妖精 中公文庫	ジョルジュ・サンド 篠沢 秀夫 訳	中央公論新社	953.6
いのちは贈りもの ホロコストを生きるのびて	フランシーヌ・クリストフ 河野 万里子 訳	岩崎書店	956

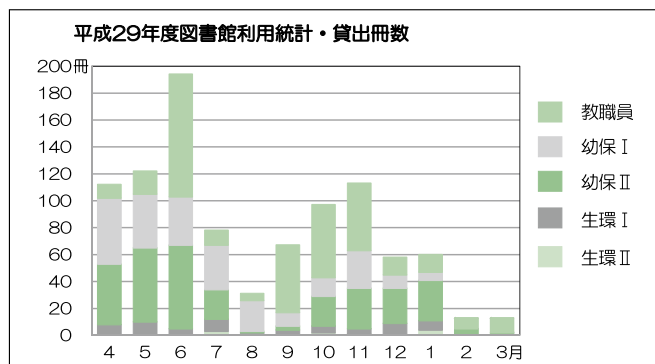
図書館利用統計・年間報告

平成30年度の図書館利用統計を報告します。開館した238日間で2,676名の来館があり、のべ458名による958冊の貸出がありました。月平均にすると全体の約29%の人が図書館を利用し、一人あたりの月間貸出冊数は2冊だったことになります。

以下の分野別図書貸出冊数グラフからは、実用的な分野の資料が貸出しの中心となっていることがわかります。読書＝文学（小説）という印象があるかもしれませんが、実用書を読むことも読書の一つです。今後も時間を見つけて読書する習慣を続けていきましょう。



分野別に見ると
楽譜や絵本を含む
芸術分野、教育
や福祉を含む
社会科学分野、
雑誌の貸出が多
なっています。



年間を通して見ると
夏休みと春休みの
貸出がほとんど
ありません。
長期のお休み期間
は貸出冊数が6冊
に増え、貸出期間
も長くなります。
この機会にどんど
ん活用してくださ
い!!



Ⅰ 回生は8カ月、Ⅱ 回生は1年8カ月の間に借り出した合計冊数です。トップの読書家は月平均3.6冊読んでいます。

貸出冊数上位ランキング				
	生環Ⅰ	幼保Ⅰ	生環Ⅱ	幼保Ⅱ
1	6冊	18冊	7冊	73冊
2	5冊	15冊	3冊	39冊
3	1冊	11冊	2冊	33冊
4		10冊	1冊	30冊
5		9冊		22冊

※2018年11月現在のデータによる

新着図書紹介目録

この目録は、平成30年4月から11月にかけて図書館で購入したDVD3枚、図書217冊のうち、各学科の先生方がぜひ皆さんに読んでほしいと推薦された図書の一覧です。分類番号の見方は、館内にあるパスファインダー「本を探すには」を参照してください。

書 名	編 著 者 名	発行所	分類番号	書 名	編 著 者 名	発行所	分類番号
ポジティブ心理学入門 幸せを呼ぶ生き方	島井 哲志	星和書店	140	神戸市・西宮市の公立保育士 専門試験 2018年度版	協同教育研究会 編	協同出版	376.14
生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉	日野原 重明	幻冬舎	159	宝塚市・川西市・三田市・芦屋 市の公立幼稚園教諭・保育士 専門試験 2018年度版	協同教育研究会 編	協同出版	376.14
元始、女性は太陽であった 平塚らいてう自伝 1～4 (国民文庫)	平塚 らいてう	大月書店	289.1	保育所保育指針解説 平成30年3月	厚生労働省	フレーベル館	376.15
公務員試験受験ジャーナル 31年度試験対応 Vol.1	受験ジャーナル編集部 編	実務教育出版	317.4	幼稚園教育要領解説 平成30年3月	文部科学省	フレーベル館	376.15
地方初級・教養試験過去問350 平成10～29年度の問題を収録！	資格試験研究会 編	実務教育出版	317.4	幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府 文部科学省 厚生労働省	フレーベル館	376.15
地方中級採用試験問題集 公務員試験2020年度版	資格試験研究会 編	実務教育出版	317.4	新・たのしい子どものうたあそび 現場で活かせる保育実践 第2版	木村 鈴代 編著	同文書院	376.157
最新！SPI3完全版 2020年度版	柳本 新二	高橋書店	336.42	イラスト 人体の中の自然科学	川畑 龍史	東京教学社	491.3
SPI3&テストセンター 出るところだけ！完全対策2020年度版	就活ネットワーク 編	実務教育出版	336.42	人体のしくみとはたらき	澤口 彰子 他	朝倉書店	491.3
モラトリアム人間の時代 改版 (中公文庫)	小此木 啓吾	中央公論新社	361.4	介護現場で使える医療知識& お薬便利帖	介護と医療研究会	翔泳社	493.18
母なるもの (どう考えるか)	河合 隼雄 藤田 統 他	二玄社	367.3	食生活データ総合統計年報 2018	三冬社 編集部 編	三冬社	498.5
社会福祉用語辞典 福祉新時代の新しいスタンダード 第9版	山縣 文治 他 編集委員代表	ミネルヴァ書房	369	世界一シンプルで科学的に証 明された究極の食事	津川 友介	東洋経済新報社	498.5
福祉 カタカナ語辞典 (第2版)	大西 健二 蒔田 勝義	創元社	369	佐々木敏のデータ栄養学のすすめ 氾濫し混乱する「食と健康」の情報を整理する	佐々木 敏	女子栄養大学 出版部	498.55
そのまま使える！ 介護記録の書き方&文例集	梅沢 佳裕 監修	西東社	369.16	医者が教える食事術 最強の教科書	牧田 善二	ダイヤモンド社	498.58
介護福祉士国家試験 過去問解説集 2019 第28回～第30回全問完全解説	介護福祉士国家試験 受験対策研究会 編	中央法規出版	369.17	最強の栄養療法 「オーソモレキュラー」入門	溝口 徹	光文社	498.58
わかる！受かる！介護福祉士 国家試験合格テキスト 2019	介護福祉士国家試験 受験対策研究会 編	中央法規出版	369.17	全196ヵ国おうちで作れる 世界のレシピ	本山 尚義	ライツ社	596.2
“ケアが変わる” 介護記録の書き方	田形 隆尚	中央法規出版	369.26	HOME PARTY 料理と器と季節の演出 ケータリングのプロが教える	江川 晴子	世界文化社	596.4
介護・看護サービス統計データ集 2017～2018	三冬社 編集部 編	三冬社	369.26	ヘルプマン！ 21 震災編 episode1	くさか 里樹	講談社	726.1
高齢社会白書 平成30年版	内閣府 編	日経印刷株式会社	369.26	ヘルプマン！ 22～24 介護起業編	くさか 里樹	講談社	726.1
これならわかる<スッキリ図解> 介護事故・トラブル	小林 彰宏 監著	翔泳社	369.26	身体活動・体力と健康 活動的生活スタイルの推進	勝田 茂 監訳 石川 旦 訳	朝倉書店	780.19
タイプ別対応でよくわかる 認知症ケア 介護現場ですぐに役立つ！	熊谷 頼佳	ナツメ社	369.26	イラスト 運動生理学(第5版)	朝山 正己 彼末 一之 他編著	東京教学社	780.193
わかる・伝わる・つながる 根拠のある介護記録のつくり方	田形 隆尚	中央法規出版	369.26	広辞苑 第七版	新村 出 編	岩波書店	813.1
大阪市の公立幼稚園教諭(過去 問題集)専門試験 2018年度版	協同教育研究会 編	協同出版	376.14	デキる大人の文章力教室	小林 洋介	日本文芸社	816

読書感想文 入選者と書名

- ★**優秀作** 幼児教育保育学科 12番 佐藤かえで 「いのちのバトン」
 ★**優秀作** 幼児教育保育学科 22番 柳田 和香 「さっちゃんのまほうのて」
 ★**佳作** 幼児教育保育学科 8番 木下 深結 「羊と鋼の森」



図書館からのお知らせ

図書館の絵本が増えました。大型絵本、あかちゃんのための絵本、季節や行事に関する絵本などです。実習で活用する幼児教育保育学科の皆さんはもちろんのこと、生活環境学科の皆さんもぜひ、授業の合間に読みに来てください。童心にかえってほっこりできますよ！

書 名	著 者 名	発行所
大型絵本 ぐりとぐらのおきやくさま	中川 李枝子	福音館書店
大型絵本 ふゆのよるのおくりもの	芭蕉 みどり	ポプラ社
大型絵本 もりのおふろ	西村 敏雄	福音館書店
14ひきのあきまつり	いわむら かずお	童心社
14ひきのやまいも	いわむら かずお	童心社
あけましておめでとう	中川 ひろたか	童心社
複製版 ちいさいモモちゃん3 あめごんごん	松谷 みよ子	講談社
えんにち	五十嵐 豊子	福音館書店
おこだでませんように	くすのき しげのり	小学館
おにはそと	せな けいこ	金の星社
おもちのきもち	かがくい ひろし	講談社
カエルのおでかけ	高畠 那生	フレーベル館
かさかしてあげる	こいで やすこ	福音館書店
かわいいむしのえほん ありこちゃんのおてつだい	高家 博成 仲川 道子	童心社
かわいいむしのえほん かたつむりののんちゃん	高家 博成 仲川 道子	童心社
かわいいむしのえほん かぶとむしのぶんちゃん	高家 博成 仲川 道子	童心社
かわいいむしのえほん かまきりのかまくん	高家 博成 仲川 道子	童心社
かわいいむしのえほん くわがたのがたくん	高家 博成 仲川 道子	童心社
かわいいむしのえほん ころちゃんはだんごむし	高家 博成 仲川 道子	童心社
かわいいむしのえほん ちょうちょのしろちゃん	高家 博成 仲川 道子	童心社
かわいいむしのえほん てんとうむしのてんてんちゃん	高家 博成 仲川 道子	童心社

書 名	著 者 名	発行所
かわいいむしのえほん とんぼのあかねちゃん	高家 博成 仲川 道子	童心社
かわいいむしのえほん ばったのびよんこちゃん	高家 博成 仲川 道子	童心社
くすのきだんちのあきまつり	武鹿 悦子	ひかりのくに
くすのきだんちのあめのひ	武鹿 悦子	ひかりのくに
くすのきだんちのなつやすみ	武鹿 悦子	ひかりのくに
くすのきだんちはゆきのなか	武鹿 悦子	ひかりのくに
くすのきだんちへおひっこし	武鹿 悦子	ひかりのくに
ぐりとぐらとすみれちゃん	中川 李枝子	福音館書店
ぐりとぐらのかいすいよく	中川 李枝子	福音館書店
このあとどうしちゃう	ヨシタケ シンスケ	プロンズ新社
十二支のおはなし	内田 麟太郎	岩崎書店
十二支のはじまり	やまち かずひろ	小学館
すきになりそう・・・	いもと ようこ	至光社
どうくんのあめふりさんぽ	なかの ひろたか	福音館書店
たなばた	君島 久子 再話	福音館書店
たなばたプールびらき	中川 ひろたか	童心社
なつのおとずれ	かがくい ひろし	PHP研究所
えほん・こどもの四季 のはらのひなまつり	神沢 利子 いわむら かずお	金の星社
ひなまつりにおひなさまをかざるわけ	瀬尾 七重	教育画劇
ぼくのニセモノをつくるには	ヨシタケ シンスケ	プロンズ新社
むしたちのうんどうかい	得田 之久	童心社
うるしー あかちゃんを選んだあかちゃんのための絵本	ロロン	ディスカヴァートゥエンティフン
もいもい あかちゃんを選んだあかちゃんのための絵本	市原 淳	ディスカヴァートゥエンティフン
モイモイとキーリー あかちゃんを選んだあかちゃんのための絵本	みうら し〜まる	ディスカヴァートゥエンティフン

あ・と・が・き

小規模な短期大学でありながら、図書館ニュースを継続して発行し続けてこられたのは、学院長、理事長、毎号の表紙の巻頭言を寄稿されてきた代々の学長のご尽力と代々の司書の努力の賜物であり、深く敬意を表します。また、随想や推薦図書等を書かれた先生方の協力にも感謝いたします。

この図書館ニュースの“あとがき”でも、ここ数年は、スマホの影響による利用者数の減少がコメントされていますが、その流れは止めようもありません。しかし、利用者増に向けた取り

組みもなされており、本学の図書館の役割・機能も基本はしっかり維持しながら、時代に沿って変わりつつあります。以前は、情報のストックが中心機能でありましたが、情報の発信も重要な機能となって来ています。これからも公開講座や各種イベントを企画し、発信して行きます。さらに、各種情報検索等の図書館でできることや図書館スペースの有効活用等を在学生、卒業生、教職員に案内し、利用促進活動に取り組んでまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いする次第です。

(館長・浅田雅宣)



編集発行

甲子園短期大学図書館

〒663-8107 兵庫県西宮市瓦林町4-25

TEL.0798 (65) 3300 / FAX.0798 (67) 9101